

研修会報告

令和 8 年 1 月 23 日

文 責： 加賀 淑子

研修会テーマ 「凝固異常の診かた・考え方～追加検査の留意点と検査指標～」

開催日時 令和 8 年 1 月 17 日 (土) 14:00 ～ 16:35

会 場 Zoom ウェビナーを用いた Web 開催

司 会 東北医科薬科大学病院 大場 祐輔

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 43 名,入会申請中会員 0 名,非会員 0 名,賛助会員 0 名,
学生 0 名 合計 43 名

講演 1 「クロスミキシングテストの原理と実践：因子活性等を踏まえて」

山形大学医学部附属病院 検査部 結城 智嗣 技師

講演 2 「凝固異常の読み解きかた：病態ごとの検査所見と追加検査の留意点」

天理よろづ相談所病院 臨床検査部 下村 大樹 技師

16:35 終了

内容

令和 7 年度 2 回目の血液部門研修会はテーマ「凝固異常の診かた・考え方～追加検査の留意点と検査指標～」と題し、開催した。

講演 1 では「クロスミキシングテストの原理と実践：因子活性等を踏まえて」と題し、クロスミキシングテストについて詳しく講演いただいた。クロスミキシングテストは凝固時間が延長した際に原因をスクリーニングするために行う。しかし、検査施行前にまず患者情報の参照や種々の検査結果によりクロスミキシングテストを実施すべき症例か否か選別することが重要であり、そのために凝固時間に影響する可能性がある薬や病態を十分に理解する必要がある。クロスミキシングテストは未だ標準化がなされていない検査のため、測定ポイントや用いる正常血漿、加温時間が施設により異なる。それらの点に関して、参考となる文献やデータを示しながら、自施設の運用などを講演いただいた。

講演 2 では、「凝固異常の読み解きかた：病態ごとの検査所見と追加検査の留意点」と題し、凝固因子欠乏症や自己免疫性 FV 欠乏症 (AF5D)、ループスアンチコアグラント陽性低プロトロンビン血症症候群 (LAHPS) など凝固検査で異常を認める疾患の検査値の読み方や追加検査について講演いただいた。PT と APTT の延長度合の違いなど病態を推測するために役立つポイントを示しながら、症例を解説いただいた。講演いただいた病態を推測するために役立つポイントはルーチン業務にすぐに活かせるものであり、今後遭遇するかもしれない症例を学ぶことができ勉強になったとの声が聞かれた。

参加者は、皆最後まで熱心に聴講していた。今後も宮城県臨床検査技師会員のために楽しく学べる研修会を開催し、勉強する場を提供したい。